

ベルマーク新聞 2月号

発行 公益財団法人ベルマーク教育助成財団 東京都墨田区両国3-25-5 JEI両国ビル9階 〒130-0026 電話 03-5638-2320(代表)
郵便振替口座 00100-7-56035 ホームページ <https://www.bellmark.or.jp/>

400人が100万点以上を仕分け

 グラクソ・スミスクライン社のボランティア

以前からベルマークの仕分けボランティアに取り組んでいる製薬会社のグラクソ・スミスクライン（GSK、本社・東京都港区）の社員たち約400人が、100万点を超すベルマークを仕分け・集計しました。準備段階を含めて5カ月がかりの大仕事でした。

GSKは英ロンドン発祥の、世界有数のグローバル企業で、国内だけでも約2800人の社員がいます。ボランティア休暇「オレンジデー」制度を設けるなど社会貢献も積極的に進め、社内にはボランティア活動を企画・運営する「社会貢献活動チーム」があります。

そのチームから財団に連絡が入りました。全社員に呼びかけ、大々的なベルマークの仕分けボランティア活動を計画している、とのことでした。

調整の結果、ベルマークがいっぱい詰

まった段ボール4箱を昨年7月、財団からお送りしました。ざっと100万点はあるそうな量です。GSKは2020年にも7万点余りの仕分け作業をしてくれましたが、今回は、はるかに多量のベルマークが相手です。

9月以降、GSKからは仕分け済みのベルマークが入った大量の封筒が届くようになりました。そして10月28日、最終便のベルマークが届きました。集計結果は113万8571点でした。

コロナ禍の中、社会貢献活動チームのメンバーにリモートで取材しました。それによると「コロナで外での活動ができないため、在宅で出来るボランティアの情報を探していた」のだそうです。

社内SNSやメールでやり方も丁寧に説明。全社から募った参加者にはチームからベルマークを送ります。その量は

一世帯あたり1000枚前後。「多すぎる」といやになってしまうので、ちょうど1回で作業を終えられるくらいが適量とのこと。中には「物足りない」と「おかわり」を注文した人もいたそうです。

家庭での仕分け作業の様子を社内SNSにアップする社員もいました。瀬戸物やポリ容器など家にあるものを使ったり、夏休み中の子どもたちとゲーム感覚で一緒に作業したり。中にはお子さんが夏休みの自由研究の素材として活用した例も。参加者は全国に散らばっていましたが、リモートワークを活用して、孤立感のないよう心がけたといいます。

仕分け集計を終えての感想を、チームメンバーの一人は「ボランティアはみんな外に集まり清掃をする、というイメージがありましたが、コロナ禍で世の中も変わりました。そんな中、在宅でも

ボランティアをやりたいとみな考えていたことがわかりました。外出できない状況でも、これなら参加しやすかったと思います」と話してくれました。

今回「活躍」したGSK社会貢献活動チームのメンバーは以下のみなさんです。
【本社・発送／集計担当】水田紗由美、長谷川直美、浅谷武樹、大坂和明、今井彩乃
【デジタル／募集促進担当】増田公子、白崎圭一、廣瀬論史、池田紗希、新田豪

おうちの仕分け、
おつかれさまでした!!



西大和学園カリフォルニア校

日本人学校4校の支援決まる

 2021年度の支援先は計273校

ベルマーク財団が2021年度に支援する日本人学校がこのほど決まりました。マレーシアのクアラルンプール日本人学校、アメリカの西大和学園カリフォルニア校、ニュージーランドのオークランド日本語補習校、フランスのモンペリエ日本語補習学校の4校です。それぞれ、学校の希望するボールかごや折り畳み式鉄棒、ハンドベル、法被（はっぴ）などが贈られます。

日本人学校への支援は1991年度から実施しており、今回も含め、これまでに270校を支援しています。

これで2021年度に計画していた支援はすべて完了しました。その内訳は、全国のへき地校100校と特別支援学校45校、海外の日本人学校4校に希望の備品、院内学級4校にタブレットなど、岩手・宮城・福島3県の東日本大震災被災校120校に希望の備品やバス代。計273校への支援を実施しました。すべての運動参加団体による地道な活動と、「子どもたちのために」と送られてきた寄贈マーク等によって、コロナ禍の中でもこれだけの支援が実現できました。ありがとうございました。